

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月15日現在

機関番号：34101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520068

研究課題名（和文）宗教都市伊勢における神仏分離と寺院・神祠の景観変化に関する歴史的研究

研究課題名（英文）Historical Studies on the Separation of Shinto and Buddhism and on the Changes of Landscape Focusing on Buddhist Temples and Shinto Shrines in the sacred city of Ise

## 研究代表者

河野 訓（KAWANO SATOSHI）

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：20329907

研究成果の概要（和文）：伊勢神宮をかかえる宗教都市伊勢の、江戸時代から明治維新までの宗教面での変貌を明らかにした。伊勢では寛文10年(1670)の山田の大火によって多くの寺院が焼失し、新たに寺町が形成され、寺院の整理が行われた。また、明治維新の神仏分離においては多数の寺院が市中から消えた。これを明らかにするため伊勢に関する近世を中心とした文献史料と古絵図を精査し、消滅した寺院の歴史と所在を明らかにし、古絵図上にこれを示した。

研究成果の概要（英文）：Our research project clarified the religious transformation of Ise, the sacred city, where the Grand Shrines of Ise are located, from the Edo period through the beginning of the Meiji Restoration. Because of the disastrous fire in 1670, a lot of Buddhist temples were burnt down in Ise. Many temples were forced to move into some sections around the town, furthermore the readjustment of temples was enforced. At the separation of Shinto and Buddhism many Buddhist temples went missing. To clarify this situation, we examined the documents and the old maps related to the early modern times of Ise. As the result, we made clear the history and the location of the vanished temples, and showed them on the old maps.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、宗教学

キーワード：宗教社会学

## 1. 研究開始当初の背景

(1)近年、神仏分離研究について神仏習合・分離研究の基本となる諸史・資料の発掘とそれを用いた地方の実態的な分析研究の必要性が

一層認識されてきた中で、本研究は櫻井治男代表「宗教都市における神仏分離の実態的研究—伊勢神宮の門前町「宇治・山田」を中心に—」（平成19～21年度、基盤研究（C））。以

下、櫻井科研と略す)の研究方針と研究成果を引き継いで進められるものである。

(2)研究上、基礎史・資料の欠如が最大のネックであったが、櫻井科研では三重県庁や三重県神社庁の所蔵する史・資料のデータ化がなされ、神仏分離研究の基礎史・資料を研究上の共有財産として提供した。このデータを基礎とし、さらにこのデジタル資料化に洩れたもの、すなわち神仏分離の際、諸史・資料中に見られる寺院関係の記述内容や廃寺となった寺院の所有していた文書、仏具、什物関係資料の収集、データ化が必須の作業である。

(3)更に、寛文10年(1670)の山田での大火や明治の神仏分離にともない、多くの寺院が消失し、宇治と山田の宗教事情は激変した。これら地図情報をシステム化して目に見える形で廃寺並びに存置寺院及び神社、御師宅などの変動状況を提示できないか、と考えた。

(4)また、櫻井科研で収集された神葬祭関連資料について、引き続き新データも含めて伊勢における神葬祭の儀礼や神葬祭詞、霊前前詞を分析し、そこに伺える世界観(他界観・死生観)を考察する。

## 2. 研究の目的

近世から近代にかけての伊勢の景観の変化を古地図などを用いて画像化し、神仏混淆の状態から神仏分離を経て神宮を中心とした神道に特化される経過を明らかにする。宗教都市伊勢(もと宇治・山田両町:旧度会府)の神仏分離を神道側や仏教側の得失的な観点からではなく、客観的に実態を分析研究する。その基盤として仏教寺院関係の関係史・資料や墓地の立地変遷をデジタルデータ化し、神道神社関係のデータとあわせ用いながら、神葬祭に見られる世界観などの思想研究を進める。

## 3. 研究の方法

### (1)関係資料の調査・収集

①神仏分離後に旧度会府(宇治・山田両町:現伊勢市)内の寺院等に移された廃寺関連文書・仏具・什物等及び神仏分離後の廃寺からの県内、県外(愛知県が主)への流出物(仏具・什物等)の内容調査と収集及びデジタル画像化を進める。

②三重県神社庁(津)所蔵のうち、神仏分離前後の寺院、神祠関連文書の内容調査とデジタル画像化を進める。

③三重県庁所蔵(現在、三重県史編纂室が保管:津市)、神宮文庫(三重県伊勢市)所蔵、三重県神社庁(津市)などに所蔵される宇治・山田の古地図・古絵図(紙地図)のデジタル資料化を進める。

④神仏分離令前後の宇治・山田所在寺院と各宗派本山及び本寺間で交わされた各種文書、往復書簡の内容調査と収集し、デジタル化に着手する。

### (2)収集資料の整理と解読

①収集資料のなかより資料の重要度に応じて解読作業を進め、分析し、併せて先行研究や櫻井科研の成果との照合、比較研究を進める。

②収集資料と櫻井科研の成果との照合、比較研究を進める。

③地図情報のシステム化。デジタル画像化した紙地図に寺社等の情報をマッピングする。

### (3)研究打ち合わせ会・勉強会の開催

①各分担に応じて進めた研究成果を持ち寄る研究打合せ会を定期的に行い、研究内容の共有化を図る。

②研究を進める上で必要な情報を得るために専門的知識を有する研究者を交えた勉強会を開催する。

### (4)画像による宇治・山田の景観の復元

①宇治・山田に関する神仏分離関連資料のデジタル化完成と活用準備

②古絵図を利用して近世と近代の宇治・山田の景観を復元する。

③宇治・山田における神仏分離の実態、神葬祭化及び景観変化に関する研究成果の発表をかねてミニシンポジウムを開催する。

(5)研究成果の公開の一環として、新収集資料の目録化及び宇治・山田の廃寺からの流出物、関係資料の翻刻を中心とした報告書(含CD版)の作成を行う。

#### 4. 研究成果

##### (1)研究資料の調査・収集

①神仏分離後に旧度会府内の寺院等に移された廃寺関連文書・仏具・什物については研究文献とその内容について整理し、さらに伊勢市内の寺院や公民館等で調査を行い、聞き取りも行った。

②神仏分離後の廃寺からの流出物(仏具・什物等)については愛知県碧南市の寺院等で現地調査と聞き取りを行ない、現住職から関連する情報を得た。

③三重県神社庁所蔵資料のうち、建物の図及び図面をデジタル撮影した。

④神宮文庫所蔵の宇治・山田に関する江戸時代の諸史料及び明治以降の神仏分離関連資料を調査し、宇治・山田の古地図に描かれている社寺や諸史料に出る寺院について、伊勢市内各地で現地調査を行った。

⑤東京国立博物館所蔵の伊勢路見取絵図を閲覧し、デジタル撮影した。

⑥伊勢市史編さん室所蔵の、歩数で距離が示されている『山田衢々之図』をデジタル撮影した。これをもとに、すでに廃寺となった山田の寺院の現住所を確定した。

⑦伊勢市図書館所蔵の古地図類、文献類を閲覧し、諸資料を入手した。

⑧宇治・山田の宗教事情を知る基礎史料となる『勢陽雑記』、『神宮典略』、『勢陽五鈴遺響』及び『宇治山田市史』の仏教寺院関係記述をデータ化した。

##### (2)【収集資料の整理と解説】

①明治時代撰述で、宇治・山田の寺院についてまとめた『寺院名録』が依拠した資・史料を精査し、

照合した。

②明治2年に作成された『寺院検録』所載の286ヶ寺について、データベース化した。

③『寺院名録』所載の寺院のうち『寺院検録』に記載のない264ヶ寺のデータベース化を行なった。

④『寺院検録』から作成した286ヶ寺及び『寺院名録』から作成した264ヶ寺以外に、二つの史料の性格上、何れにも記載のなかった寺院があったため、神宮文庫所蔵の諸文献を参考に新たに59ヶ寺に関する補表を作成し、データベース化した。

⑤伊勢市史編さん室所蔵の『山田衢々之図』などをもとに、伊勢市内全般と神領五ヶ村のあった明和町についてすでに廃寺となった寺院の現住所を確定した。

⑥伊勢(宇治・山田)における神仏分離の性格を明確にするために奈良県や京都府、福岡県、福井県等における神仏分離の事例を研究し、各地の社寺で行われた神仏分離の事例のレポートを作成した。

⑦東京国立博物館所蔵の伊勢路見取絵図を基本とし、絵図上の寺院と、種々の絵図や上記基礎史料の情報をリンクさせた。

⑧平成23年度作成に『寺院検録』から作成した286ヶ寺及び『寺院名録』から作成した264ヶ寺以外に、二つの史料の性格上、何れにも記載のなかった寺院があったため、神宮文庫所蔵の諸文献を参考に新たに59ヶ寺に関する補表を作成した。

⑨東アジアにおける仏教と固有の宗教の交渉について、特に韓国・曹溪宗における「三聖」信仰をめぐる神仏の習合と神仏分離について、また、中国においては神仏の習合と日中戦争及び文化大革命による仏教寺院の破壊に関する調査を行った。

⑩以上の種々の研究成果を交えながら報告書を作成した。

##### (3)意義・重要性

①本研究の目的は、伊勢神宮をかかえる伊勢市が近世から近代にかけて、神仏混淆の状態から神仏

分離を経て神宮を中心とした神道に特化される経過を明らかにすることにある。

②文献資料の精査と伊勢市内を中心とした現地調査を重ねたことにより、江戸時代の寺院の所在地がほぼ確定でき、宇治・山田の宗教事情に関する一層正確な内容の基礎データベースを作成することができた。

③また、日本各地及び中国、韓国の神仏分離を併せて研究したことにより、伊勢の神仏分離の特異性が浮き彫りになったことが最も大きな意義といえる。

④伊勢市内に存在した寺院や神祠などの宗教施設に関し、古絵図や文書など諸文献に蓄積されてきた情報を整理し、データ化したことで、今後の研究・分析のための基礎資料が提供できた。

⑤また、古絵図や諸文書を関係づけることによって、画像上から原史料へ到達できるなどコンピュータを利用した形での基礎資料の提供を行なうことができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 木村徳宏、室町期の神宮学—神宮考証学の曙光—、皇學館大学神道研究所紀要、査読無、第29輯、2013年、pp. 9-14 皇學館大学
- ② 蓑輪顕量、韓国における仏教と神信仰の関係—神仏の併存と分離について」、パーリ学仏教文化学、査読無、2012、pp. 169-191
- ③ 櫻井治男、伊勢神宮神職の死生観をめぐる諸問題、龍谷大学人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター2011年度報告書、査読無、2012、pp. 121-141
- ④ 櫻井治男、地域神社研究のこれから—絆(きずな)と縁(えにし)の神社学—、國學院大學研究開発推進機構紀要、査読無、第4号、2012、pp. 1-40
- ⑤ 本澤雅史、住吉大神宮祝詞の構成と言語、神道史研究、査読有、第59巻第2号、2011、pp. 11-27

[学会発表] (計5件)

- ① 櫻井治男、御師制度の廃止と伊勢信仰に関する研究の意義、神道宗教学会、2012

年12月2日、國學院大學

- ② 木村徳宏、室町期の神宮学—神宮考証学の曙光—、皇學館大学神道研究所平成23年度公開学術シンポジウム、2011年12月10日、皇學館大学
- ③ 櫻井治男、地域神社研究のこれから—絆(きずな)と縁(えにし)の神社学—、平成23年度國學院大學研究開発推進機構公開学術講演会、2011年10月1日、國學院大學
- ④ 河野訓、江戸期の伊勢・山田における寺院の変遷—寺町の形成と崩壊—、日本宗教学会、2011年9月4日、関西学院大学
- ⑤ 櫻井治男、神道の死生観の現在、ワークショップ：「死生観と超越」研究の展望、2010年7月13日、龍谷大学

[図書] (計5件)

- ① 河野訓、科研報告書、宗教都市伊勢における神仏分離と寺院・神祠の景観変化に関する歴史的研究、2013、250
- ② 櫻井治男、伊勢市、伊勢市史第4巻(近代編)、2013、37(1237頁中)
- ③ 田浦雅徳、伊勢市、伊勢市史第4巻(近代編)、2013、177(1237頁中)
- ④ 本澤雅史、戎光祥出版、祝詞用語用例辞典、2011、272
- ⑤ 櫻井治男、弘文堂、地域社会の宗教学、2010、408

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

河野 訓 (KAWANO SATOSHI)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：20329907

##### (2) 研究分担者

櫻井 治男 (SAKURAI HARUO)

皇學館大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：00087735

本澤 雅史 (MOTOZAWA MASAHUMI)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：70174349

外山 秀一 (TOYAMA SHUICHI)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：50247756

田浦 雅徳 (TAURA MASANORI)

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：20298649

蓑輪 顕量 (MINOWA KENRYO)

東京大学大学院・人文社会系研究科・教授

研究者番号：30261134

木村 徳宏 (KIMURA NORIHIRO)

皇學館大学・文学部・助教

研究者番号：10454456